

令和5年度 第2回 学校運営協議会 記録

R5.8.8 (火) 13:30～15:30

※外部参加者（学校運営協議会委員）

木下清史氏（三方原地区根洗町自治会長）

宮津輝雄氏（細江地区湖東自治会長）

安達 広氏（社会福祉法人聖隷事業団 医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院 執行役員・事務局長）

堀内 剛氏（浜松市社会福祉事業団 浜松市発達医療総合福祉センター
福祉センター所長）

加藤久貴氏（弁護士法人 リコネス法律事務所 弁護士）

山田浩昭氏（静岡県総合教育センター 専門支援部特別支援課 特任教官
前浜松特別支援学校長）

松本浩一氏（西部特別支援学校 PTA 会長）

※校内参加者 校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、 訪問教育主任、教務課長、総務課長

<学校運営協議会>

- 1 開会の言葉
- 2 校長挨拶
- 3 協議

(1)防災について

【本校の状況と防災対策】

- ・本校のBCP計画は、危機管理マニュアルで対応
- ・北区防災担当課、障害福祉課、長寿保険課とマニュアルについて確認
- ・聖隷三方原病院看護師との情報交換
- ・防災研修（静岡県西部危機管理局 IDEA）
- ・学校の被害想定：津波、原発事故、噴火の被害は少ないと思われる

【発災時の対応】

- ・震度5以上⇒児童生徒の引き渡し、居住地が津波浸水区域内の家庭は本校待機
- ・震度4以下⇒災害対策本部で被害状況を把握、授業の継続、引き渡しを判断

【福祉避難所について】

- ・特別な配慮を必要とするために設置、二次的な避難場所
- ・受け入れ対象者は、常時介護を要しない在宅の高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、傷病者、難病患者、介護等にあたる最低限の家族など
- ・発災から三日目をめどに開設、七日目をめどに閉鎖

<意見・質疑応答>

A委員：浜松市の福祉避難所は250施設ほど 障害者向けは20から30ほど
実際に機能するのか心配である。

対象者が一般の避難所に行って、何日か過ごせるのか。
直接避難した方が良いという考えも、国は検討している。
市から職員が福祉避難所に本当に派遣できるのか、分からない。
防災ワークショップ⇒Zoomでも参加可能

B委員：トリアージは非常に難しい 実際には誰がやるのか。

⇒管理職が対応する予定

C委員：児童生徒が在籍する中で、どう福祉避難所を運営していくか。

⇒開放する部屋を決めている。避難者と本校児童生徒のスペースを分ける予定である。

人手不足は心配である。学校休業日のときは、市の職員が開設する。

引き渡した後に、また戻ってくるケースもあるのではないかと。

⇒家よりも安全な場合もあるので、そういうケースも考えられる。

D委員：受け皿を明確にしておいた方が良い。

避難時に地域で水が出る場所を調査している。

A委員：障害者の防災計画（個別）を希望者に提供し始めている。

(2) 地域と学校の連携

グループに分かれて

<グループ1> 地域と学校との連携

【防災について】

・D委員：災害時、どのようなことが心配か。

⇒教 頭：地域からボランティアの方が来てくれるとありがたい。

⇒D委員：ボランティアが行ったときに、具体的に指示を出してくれれば、できることもある。

⇒B委員：大まかな動きや対応が決まっていると良い。

・D委員：AEDの研修を地域でもやりたい。多くの人が使えるようにしたい。
⇒学校で行っているAED研修を地域の方と一緒にやったらどうか。

・E委員：本校の位置は、根洗の中でも一番端である。来校してくれるボランティアを作っておかないとならない。ボランティアの人にやってもらうことのリストがあると良い。

⇒学校として、ボランティアの方と普段からつながっていると安心である。

・D委員：自主防災に参加する人が少なくなってきた。協力者が増えると良い。

【地域とのつながりについて】

・教 頭：本校生徒会主催のエコキャップ運動のちらしを地域に回覧していただいた。

⇒D委員：すぐには行動に移すことは難しいが、回覧板はみんな見ている。

・B委員：作品展を行ったらどうか。

⇒教 頭：協働センターなどに作品を展示したい。

⇒D委員：敬老会などのときに、出しても良い。

・E委員：区の編成が変わり、学校所在地の自治会も変わる。

- ・ F 委員：ボランティア制度は、良いと思う。チラシを配ることはどうか。自治会よりも、学校近隣の家庭にお知らせしたり、名札を渡したりするとよいのではないか。
 - ・ 教 頭：駐車場のことについては、近隣の方に協力してもらっている。本校児童が「総合的な学習の時間」の授業でじゃがいもを掘らせてもらった。
 - ・ E 委員：地盤が強固なので、学校周辺の建物の倒壊は少ないと思われる。コミュニケーションが取れる地域になると良い。サポーター募集をしてくれれば、集まるのではないか。学校内に地域の人が入れないので、なかなか知ることができない。
 - ・ 教 頭：来年度は創立 60 周年なので、地域の方と一緒に何かやりたい。
 - ・ 小学部主事：5 年生が地域の学習をしている。地域の人にアンケートを取りたい。
- ⇒ D 委員：協力してくれると思う。⇒ お礼の手紙も送りたい。
- ・ 中学部主事：学校の周辺のことを学習することで、地域の方とつながりたい。作品や作業製品が紹介できると良い。
 - ・ 高等部主事：学校の子供たちのことを紹介できると良い。
 - ・ B 委員：地域の方から支援してもらっただけでなく、西部特支の児童生徒から「地域のために」という活動ができると良い。
 - ・ E 委員：学校の中のことを地域の人には知らない。サポートするなら、どのような子供たちがいるのか知らないといけない。学校の中を短時間でも見学したらどうか。校舎の中を通り抜けるだけでも良い。
- ⇒ B 委員：清掃活動などを一緒に行ったり、お礼を言ったりするのも良い。

<グループ 2> 地域と学校との連携

【防災について】

- ・ A 委員：福祉避難所の計画が立てにくい。実際の対応が分からず準備ができない。まずは、児童生徒が避難している場所と考え、必要な物が分かっているといけな。医療的ケアについてもフォローが必要である。医療的ケアの児童生徒は個別避難計画を作成している。
 - ・ G 委員：市が考えるものは、全体に通じるもので、個別性の高い施設では対応が難しい。市に頼っても解決できない部分が多いだろう。
 - ・ 校 長：医療的ケアの子の対応が難しくなる。行きたい病院に行くのか、個人が頑張るのか、学校が頑張るのか。発電機は医療用には使えないと言われている。
病院に頼ることはできないことを保護者に伝えていく必要がある。
- ⇒ A 委員：保護者自身が発電機や予備バッテリーを持っていることが多い。保護者も、避難所に頼るのは難しいことは分かっている人が多い。市の安否コールのシステム（医ケア対象）への登録の必要がある。コーディネーターの役割の中に、災害時対応の検討も入っている。
- ・ 校 長：実際に設備的なものが追い付いていない。何かあったときの責任は学校になるためしっかり確認していきたい。

- ⇒C 委員：スタンスを事前に共有しておき、どこまでを学校がやるのか線を引いておき、保護者にできないことを伝えておく方がよい。
- ・ G 委員：個人的に災害の準備をしておく必要があることを医ケアの保護者に伝えておくべきである。
 - ・ 訪問主任：訪問先で被災したときのことも考えていきたい。家族と何ができるか、シミュレーションしておくとうい。
 - ・ 事務長：福祉避難所を開設するにあたって、建物が大丈夫か判断する機関はあるのか。
- ⇒A 委員：自分たちで判断する。
- ⇒副校長：マニュアルには書いてあるが、来られるかどうか分からない。
- ⇒校長：来られない想定をして、そのときのチェック表がある。
- ・ C 委員：一人一人が住んでいる場所について知り、津波浸水時などの対応を考えておく。帰宅させることが安全でなくなる場合もある。「ミエルカ」を活用していくとういのではないか。
 - ・ A 委員：特別支援学校は、児童生徒の避難所として受け入れ体制を取った方がよいという提言もあるが、すべての障害者の受け入れは難しい。
 - ・ C 委員：学校が休業日のときの発災は、学校に避難するのか。
- ⇒校長：基本は自宅から地域の避難所へ避難する。
- ・ C 委員：福祉避難所として受け入れられる人数などを原則は作っておき、状況を見ながら、できる限りのことをする。
 - ・ A 委員：特別支援学校の立場から、「こういう避難所でありたい」と声を上げていく必要があるのではないか。

<グループ協議の内容を発表>

- <校長より>・地域との交流に関する具体的な話が出てきているので、ここで終わらせないで実際に進めていくことが大事である。
- ・ 子供たちも、どんどん地域に出ていけるようにしたい。
 - ・ 防災については、個別の対応を保護者と一緒に考えていきたい。
 - ・ 福祉避難所も課題が多い。職員みんな研修して準備していきたい。

4 閉会